

## 公益社団法人日本新生児成育医学会 2019年度 社員総会 議事録

日 時：2019年11月27日（水）16：30～18：00

会 場：Shiroyama Hotel kagoshima 2F クリスタルガーデン B（第1会場）

議 事：

### I. 報告事項

#### 1. 理事長挨拶・議事録署名人の選出（中村理事長）

代議員出席者117名、委任状提出35名にて、本社員総会の成立と開会が伝えられた。議事録署名人は淀川キリスト教病院の鍋谷まこと先生、名古屋大学の佐藤義朗先生が行う。

#### 2. 会長挨拶（茨会長）

「Intact survival」をテーマに盛りだくさんの内容で行っていききたいとの挨拶があった。初日ですでに712名の参加があり喜んでいる。同時開催のThe 3rd Taiwan-Korea-Japan Joint Congress on Neonatologyは、盛会のうちに本日16時に無事終了した。

#### 3. 理事長報告

##### 1) 公益法人化の件

- ・5月28日（火）に公益社団法人として内閣総理大臣より認定を受け、5月31日（金）に公益社団法人の設立登記を行った。
- ・共同通信社が台風19、21号の影響で避難所に身を寄せている方に向けて「被災地の避難所等で生活をすすめる赤ちゃんのためのQ&A」を紹介してくれた。今後、公益法人として、社会に貢献していきたいため、代議員の方々にも積極的な提案をお願いしたい。

##### 2) 韓国・台湾・日本 3か国の新生児学会交流の件

3月24日（日）に台湾で開催された学会に中村理事長・茨会長が出席した。また、5月17日（金）に開催された韓国新生児学会にも茨理事が出席した。茨会長は「The effect of Blood Purification (CHDF, PMX) for the prevention of chronic lung disease (CLD)」のタイトルにて講演された。

##### 3) 文献許諾使用料の件

メテオ社の7～9月の文献使用料は合計907円（今年度合計2,008円）で、支払い金額が税込みで10,500円を超えた時点で指定口座に振り込まれることになっている。昨年度分は合計11,563円で、6月1日に振り込まれた。

##### 4) 日本医学会加盟申請の件

これまで毎年申請を行ってきたが、加盟には英文誌を出していることが必須であることが判明したため今年の申請は断念した。

##### 5) 転載依頼の件

アレクシオンファーマ合同会社が販促活動のため制作中のwebの動画に、本学会の学会誌27巻2号に掲載された金井祐二先生の原著論文の図（超音波の写真）を転載されたいとの依頼があり、掲載料として50万円の入金があった。

##### 6) 日本妊娠高血圧学会からの依頼の件

日本妊娠高血圧学会から依頼があり9月21日（土）、22日（日）の2日間、さいたま市浦和区で開催された第40回日本妊娠高血圧学会で「妊娠高血圧腎症における胎児・胎盤要項の重要性」をテーマに細野理事に出席いただき、本学会との共同シンポジウムを行った。

##### 7) 「母子同室実施の留意点」の共同提言の件

日本周産期・新生児医学会の母子同室 WG 委員会より最終案が提示され理事の賛成多数により承認された。

8) 人乳由来母乳強化物質の国内使用についての要望書の件

極低出生体重児は母乳だけでは栄養が十分ではないため、人乳由来母乳強化物質が必要となるが、現在利用できる人乳由来の母乳強化物質では不十分なため厚生労働省に要望書案を出すこととなった。

9) The 3rd Taiwan-Korea-Japan Joint Congress on Neonatology の件

先ほど、Joint Congress が盛会のうちに終了した。次回は台湾の台北で2020年5月16日（土）に開催されるため、積極的な参加が呼びかけられた。

10) SIDS 対策強化月間ポスターの件

厚生労働省より SIDS 対策強化月間ポスターが送付されてきたため、情報共有された。

11) 代議員選挙・理事選挙のスケジュールの件

選挙のスケジュールについて説明された。理事選挙の公示が6月に行われ、8月中旬に新理事が決定する予定である。

12) 日本医療機能評価機構からの連絡の件

産科医療補償制度に関するリーフレットと Minds フォーラム 2020 の案内が送られてきたため、情報共有された。

13) 2020 年度社員総会日時 の件

2020 年は日本周産期・新生児医学会学術集会在 11 月に予定されているため、通常 11 月に行っている日本新生児成育医学会学術集会在 7 月に開催する。社員総会は、別途 11 月に社員総会を開催する必要があるため、日本周産期・新生児医学会の最終日 11 月 30 日（月）16:00 より国際フォーラムで行う予定である。

#### 4. 庶務報告（和田委員長）

全会員数は 2,802 名（昨年報告数 2,807 名）、男女比は約 2 対 1 である。新入会は 217 名（昨年報告数 215 名）、2019 年度退会者は 203 名（昨年報告数 229 名）のうち一般退会者は 84 名（昨年報告数 103 名）、資格喪失退会者が 119 名（昨年報告数 126 名）であることが報告された。また、物故会員〔石関しのぶ先生（2002 年～2007 年まで評議員）、佐藤吉壮先生（現代議員）、小西行郎先生（功労会員）〕について報告があった。

## II. 決議事項

### 第 1 号議案 定款・定款施行細則変更の件（飛彈理事・中村理事長）

公益社団法人申請にあたり、修正しなければならなかった箇所について、全会一致で承認された。

主な変更は以下の通りである。

#### 【定款】

- ・タイトル等：一般社団法人から公益社団法人に書き換え。
- ・第 3 章：正会員と会員の関係が不明確であるとの指摘があったため、「正会員」と表記を変更。
- ・第 15 条 5 項：定款施行細則 20 条との整合性を取るため追加。
- ・第 17 条：代議員の欠員の措置の項目は、定数、任期、選出方法、欠員措置等が定められている必要があるとのことで、変更。
- ・第 20 条 9 号：「理事会において社員総会に付議した事項」という表記は法律違反とまでは言えないが、トラブルにもなりかねない。修正又は削除すべきとの指摘があり、削除。
- ・第 27 条：委任状を電子でご提出いただけるよう修正。
- ・第 30 条 1 項：理事の選任は総会の決議により選任しなければならず、「代議員による選挙を経て」は削除すべきとの指摘があり削除。
- ・第 38 条：理事選挙以外で選出された 5 名の理事を「副理事」としていたが、この名称を廃止し、5 名については「理事」で議決権ありと修正。

## 【定款施行細則】

- 第10条, 第13条, 第18条: 文言の修正依頼があり, 対応。
- 第11条2項, 第11条3項: 副理事長が業務執行理事と定めていない場合, 第11条2項, 第11条3項のような働きはできないとの指摘があり削除。
- 第21条9項①: 投票方法を修正。
- 第13条2項, 第23条1項, 第25条1項: 条数を修正。

なお選挙の社員総会での役員の承認方法について従来通り一括で決議してよいのかとの質問があったため, 内閣府に問い合わせることとなった。

\*後日, 内閣府に問い合わせ, 複数人を一括で決議することなく, それぞれの役員等について個別に決議を要するとの回答を得た。

第2号議案 一般社団法人第5期(2018年10月1日~2019年5月27日)決算書類承認の件(中村理事長)  
5月28日付で公益法人化したため, 分ち決算となっていて, 分けて決算報告書が作成されている。猪谷監事より監査報告があり全会一致で承認された。

第3号議案 公益社団法人第1期(2019年5月28日~2019年9月30日)決算書類承認の件(中村理事長)  
猪谷監事より, 監査報告があり全会一致で承認された。2019年度全体については以下の通りである。

収入の部: 会費は会員からの会費納入率は89%, 代議員費の納入率は101%となった。

学会誌の広告収入が減っており昨年から8万円減の132,800円となった。

アレクシオンファーマ社より50万円の文献使用料が支払われたため, 予算を大きく上回った。

支出の部: 雑誌刊行費は, 特集の掲載で各号50ページ増となり, 予算を117万円上回った。

旅費交通費は, これまで関連学会の会期中に行っていた理事会を東京で行うことになったため, 交通費が1,661,541円計上されている。

事務局受託費は公益法人化後, メディカ出版との契約を更新し, 新たに施設利用料が支払われることになったため, 予算より42万円増加となった。

当期全体の歳入・歳出では88,200,596円の歳入に対して94,964,374円の歳出となり▲6,763,778円となった(昨年度▲5,889,416円)。次年度繰越金は50,210,248円となっている。

第4号議案 2020年9月期(2019年10月1日~2020年9月30日)事業計画及び収支予算の件(中村理事長)  
第65回学術集会在7月に開催されることから, 第64回と第65回の2回分の収入と経費が盛り込まれている。全会一致で承認された。

第5号議案 年会費・代議員費増額の件(中村理事長)

この数年で600万円前後の赤字決算が続き, 学会のアクティビティが下がることが懸念されているため, 1993年から8,000円としてきた年会費を12,000円に増額することについて提案があった。また, 代議員費については5,000円から8,000円に値上げしたい旨提案があった。以下の質疑応答の後, 全会一致で承認された。会費の値上げにより若手の入会者数が減少することが考えられるため, 理事一同で学会員を増やす努力を行っていききたい。また, 支出を抑えることも検討していききたい旨報告があった。

質問: 承認された決算では繰越金が5,000万円あるが, 繰越残高はどのくらいが適正だと考えているのか?

回答: 災害等の不測の事態が起こったときに対応できるかだと考えている。災害で, 学術集会在キャンセルになることも考えられるため, 7,000~8,000万円の繰越残高に戻したい。

第6号議案 第67回学術集会在会長選出に関する件(中村理事長)

2022年学術集会在会長については理事会で細野茂春先生を推薦することが決定した旨の報告があり, 全会一致で承認された。

### Ⅲ. 各種委員会報告

#### 1) 社会保険委員会（和田委員長）

- 2020年度社会保険改訂の為の厚労省ヒアリングが終了した（2019年7月29日 提案項目:プレネイタル・カウンセリング加算）。その際の指導に基づき、カウンセリング体制、カウンセリング内容等について追加報告を行った。
- 内連の遠隔医療関連委員会の第1回会議が開催された（2019年8月23日）。当学会は①D to D、②D to Pの両方の小委員会に参加する予定である。

#### 2) 薬事委員会（飛弾委員長）

厚労省の「供給停止予定品目」疑義照会について、日本小児科学会薬事委員会から確認依頼があり、対応した。2019年8月～10月にかけて、4回の依頼があった。令和元年度第二回（31疑1333号）については、ユベラ顆粒<sup>®</sup>（サンノーバ社）が含まれていた。ビタミンEの散剤は後発品がユベラE顆粒20%（ツルハラ製薬）のみのため、同剤の安定供給の必要性について意見書を提出した。なお同様の意見書が日本小児栄養消化器肝臓学会からも提出されている。

#### 3) 利益相反委員会（山田委員長）

利益相反に該当する案件はなかった。第64回学術集会に関わる利益相反に該当する案件が発生した場合別途報告を行う。

#### 4) 感染対策予防接種委員会（森岡委員長）

日本小児科学会の主導で、日本新生児成育医学会を含むパリビズマブに関連する10学会の代表者が集まり、「日本におけるパリビズマブの使用に関するコンセンサスガイドラインが作成された。4月2日（火）に日本小児科学会のホームページ、4月3日（水）に日本新生児成育医学会のホームページに公表された。

#### 5) 男女共同参画推進委員会（河野委員長）

- 女性医師の働き方に関するアンケートを実施予定である。
- 第65回日本新生児成育医学会学術集会（札幌）で、委員会主催ワークショップを開催予定である。

#### 6) 医療の質向上委員会（長委員長）

- 稀有疾患（病態）サーベイランス事業

##### 1) 調査中の疾患（2019年10月25日現在）

「新生児血球貪食性リンパ組織球症（HLH）および新生児ヘモクロマトーシス」37回登録（31施設）

「先天性トキソプラズマ感染症」12回登録（10施設）

「サイトメガロウイルス（CMV）関連敗血症様症候群」10回登録（9施設）

「新生児偽性低アルドステロン症」5回登録（4施設）

「MIRAGE症候群およびMIRAGE症候群関連疾患」4回登録（4施設）

##### 2) 「症例なし」487回登録（201施設）→「症例なし」を疾患ごとに登録できるよう検討中。

##### 3) 新規の疾患：なし

- フォローアップ事業

平成30年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 厚生労働科学特別研究事業「超低出生体重児の成人期に達するまでの慢性疾患群合併の実態把握と支援方策の確立に向けた研究（H30-特別-指定-017）」班（河野班）：報告書提出済み、第64回学術集会で発表予定。

#### 7) 学会将来構想委員会（高橋委員長）

- 新生児医療連絡会と診療委員会との共同で、現在の新生児医療提供体制についての全国調査を開始した。10月初旬に新生児医療連絡会の各都道府県代表者に医療圏・施設の調査依頼メールを送信した。調査施設を確定後、各施設の代表者（担当者）にwebアンケートに協力を依頼するメールを送信予定である。
- 11月28日に診療委員会との合同委員会を開催する。

## 8) 調査研究審査委員会（高橋委員長）

特になし。

## 9) 倫理委員会（福原委員長）

倫理委員会主催で11月27日(水)13～16時に事例を用いた多職種によるグループディスカッションを行う。11月6日(水)時点の参加者は医師6名、看護師12名、心理士6名、家族7名の合計31名であった。結果は、学会誌で報告予定である。なお、第65回学術集会ではワークショップは行わず、シンポジウムを開催予定である。

## 10) 総務委員会（和田和子委員長）

特になし。

## 11) 国際渉外委員会（日下委員長）

Joint Congress のプログラムを学術集会ホームページに掲載している。以下の先生方を招待して行い、大変盛況であった。ぜひ今後もご協力をお願いしたい。

韓国 Ki-Soo Kim（理事長）、Ellen Ai-Rhan Kim（Speaker）、Chang Ryul Kim（Chairman）

台湾 Chyong-Hsin Hsu（理事長）、Reyin Lien（Speaker）、Hung-Yang Chang（Chairman）

## 12) 学会誌編集委員会（河井委員長）

- 投稿原稿は年間30件前後となっている。代議員各位にはスムーズな査読結果返送にご協力をお願いしたい。学会誌のアクセス数を増やすことを目的に特集原稿を掲載しているが、まだ閲覧者が少ないため、協力をお願いしたい。

- 会費を値上げすることで、学会員が減ることも予想されるため、日本医学会で認められるためにも学会で英文誌を発刊したいと考えている。レビューを柱としてケースレポートを掲載するような形で構成することを検討している。

## 13) 教育委員会（早川委員長）

- 第6回医学生セミナーと第23回教育セミナーの会計報告があった。第7回医学生セミナーは、2020年5月23日(土)～24日(日)ホテルライフォート札幌にて小林正樹先生(札幌医科大学附属病院NICU)を実行委員長として開催予定である。第24回教育セミナーは、2020年8月27日(木)～29日(土)倉敷アイビースクエアにて久保田真通先生(倉敷中央病院小児科)を実行委員長として開催予定である。2021年以降については、経費削減の方向で再検討を行う。

- 11月28日(木)9:00～11:30に第6会場にて教育委員会企画を行うため、ぜひ来場いただきたい。

## 14) 学術委員会（長谷川委員長）

- 若手新生児科医フェローシップは16名採用された。

- 米国小児科関連学会2020年度発表者の件は上田一仁先生(名古屋大学医学部附属病院)を推薦し、小児科学会から推薦された。来年度以降は会員に公募予定である。

- 学術集会アンケートに協力をお願いしたい。

## 15) 医療安全委員会（渡部委員長）

- トラックケアの不具合の報告があった。学術集会終了後に学会ホームページ上で注意喚起を出す予定である。第64回学術集会では教育講演「医療ガスの基礎と安全管理」、シンポジウム「医療安全からみた新生児医療のピット・フォール」を委員会企画で行う。

- NICUで使用する栄養チューブのコネクターの規格が世界的に統一される件でJMSが、企業展示等で広報を行う。

## 16) 産科医療補償制度対応委員会（細野委員長）

特になし。

## 17) 診療委員会（与田委員長）

- 重症先天性心疾患スクリーニングに関するアンケート結果を日本産婦人科医会報へ報告した。また、中野委員が日本新生児成育医学会で口演にて発表予定で、日本周産期・新生児医学会雑誌へ投稿予定である。また、スクリーニング案を医療の標準化委員会と連携して作成予定である。
- 医療供給体制に関するアンケート結果を網塚委員が小児科学会誌に寄稿予定である。
- 日本小児科学会移行支援委員会で「疾患別 移行支援ガイド」を小児慢性特定疾病に相当する疾患について作成する。当学会は該当疾患なしであった。
- 学会将来構想委員会に協力する形で「働き方改革」に対応するためのアンケート資料作成に参画している。

18) 医療の標準化委員会（中西委員長）

スクリーニング案を診療委員会と連携して作成予定である。

- 厚生労働省保険局医療課より「医療技術に関連する指針等の現状に係る調査」依頼があったが該当するものがなかったため、その旨を回答した。

19) 災害対策委員会（茨委員長）

- 第64回日本新生児成育医学学会学術集会の最終日(11月29日14時から)鹿児島市立病院多目的ホールにて、災害医療研修会の開催を予定している。
- 12月22日10時から小児科学会災害対策委員会、12月23日19時から四者協の会議に出席予定である。

20) 広報委員会（水野委員長）

- 学会員に有益なものを発信するとともに、国民にアピールできるようなサイトにしていく旨の報告があった。

#### IV. 第65～67回会長挨拶

##### 1. 第65回学術集会（長会長）

2020年7月18日（土）～20日（月）北海道のロイトン札幌、札幌市教育文化会館にて「北の大地で新生児医学・医療の未来を語ろう」をテーマに開催される。新生児看護学会は同年7月18日（土）～19日（日）に開催することとなった。演題募集期間が例年より随分早いですが、ぜひ多くの演題登録をお願いしたい。学会が国際化に向かっているため、E-posterセッションを設ける予定である。委員会企画は、災害対策、医療安全、在宅医療、倫理、男女共同参画、教育の各委員会のセッションが予定されている。プログラムは随時ホームページ等で紹介していく予定である。

##### 2. 第66回学術集会（長谷川会長）

2021年11月11日（木）～13日（土）にパシフィコ横浜にて開催予定である。

##### 3. 第67回学術集会（細野会長）

現在、大宮ソニックシティが改修予定であるため、会場を選定する予定である。

#### V. 学会賞受賞者への賞状贈呈

学会論文賞受賞者である竹内秀輔先生（茨城県立こども病院新生児科）と学術奨励賞受賞者である齋藤純一先生（横浜市立大学医学部循環制御医学（第一生理学））に賞状と賞金を授与した。